



森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題 名：「朝陽射す溪谷の森」 撮影地：静岡市清水区吉原 撮影者：山下 多津美（静岡市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohito.jp>



INDEX

23 地域の取組（一般社団法人 フォレストーズフォーラム）
人と人をつなぎ、林業を未来へ

4 支部だより①（清水町 産業観光課）
令和6年度初めて森林経営管理制度を実施しました

5 支部だより②（浜松市 林業振興課）
「天竜材を使おう」
天竜材（FSC®認証材）利用拡大に向けた住宅補助事業の取組

6 県庁だより（くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課）
県立森林公園60周年の軌跡

7 本部情報
県への要請活動
国への要望活動

8 本部情報
林業への就業支援の取組

地域の取組

人と人をつなぎ、林業を未来へ

一般社団法人 フォレストーズフォーラム

はじめに

次の世代へ繋いでいくには一体何が必要なのか。林業において緊急性の高いこの問いに向き合い、活動を行う団体「一般社団法人フォレストーズフォーラム」が2025年4月1日に発足しました(以下Fフォーラムという)。「人と人をつなぎ、林業を未来につなぐ」を理念に掲げ、静岡県内の林業従事者を中心に設立。発起人であり、長年現場の技術向上に努めてきた(有)天竜フォレストの今井保隆氏(Fフォーラム会長)と宮本林産の宮本卓明氏(Fフォーラム副会長)にお話を伺いました。



▲今井氏(左)、宮本氏

発足の経緯

「安全で安心して働ける産業でなければ、若い人は入って来ない」。これが、Fフォーラムを立ち上げた一番の理由だと今井氏は言います。文字にすれば至極当たり前のことと感じられますが、長年、現場を見続けてきた両氏だからこそ感じる危機感があります。一向に減らない労災事故。大きな変化の無い雇用待遇。軽減されない現場の過酷さ。林業における様々な課題を認識する中で、一番取り組まなければな

らない課題が“安全確保”ではないかと。安全に不安を抱いて辞めていった若者、実際に怪我をして辞めていった若者を両氏は何人も見てきました。それを無くしたいという強い想いが原動力となり、Fフォーラム設立へと向かったのです。

「私たちは二人とも林業が好きなのです。好きな業界が若い人に選ばれ、世代交代できる“つながり”が生まれる様にするにはどうしたら良いかを、みんなと一緒に考えたいというのが設立のきっかけです」と今井氏。Fフォーラムが目指す林業は「安全安心がつながる林業」「技術がつながる林業」「知恵がつながる林業」であり、この3つを軸に活動を行うことを宣言しています。



▲正会員の方々



▲正会員の方々

安全への課題は何か

では、なぜ安全が実現できていないのでしょうか。実現には単なる意識改革ではなく、技術の継承と標準化が不可欠だと言います。「技術を“見て学べ”の文化では、我流が蔓延して安全にはつながらない。業界全体としてスタンダードな技術に合わせ、きちんと伝えていく必要がある」。昔は林業に限らず、様々な職種が“見て学べ”の世界でしたが、時代を経てその文化は変化して来ました。林業においても、緑の雇用制度が始まったことでスタンダードな技術を伝えるベースが出来つつあります。しかし、全国の緑の雇用の定着率は3年で約68%、5年で約58%、10年では約45%という現実があり、せっかく入って来た若者をつなげていく必要があります。

そして、今井氏はもう一つの問題点を提示されました。「私が見て来た林業は非常に属人的。個人の能力により安全と成果が決まり、その人の経験や知恵や技術は一緒に働いている人に伝わっていない。林業もチームプレーにしていきたい」と。それぞれの現場に眠る個の知恵を見える化し、互いに学び合える仕組みをつくる必要があるのです。



▲伐木造材技術講習会の指導

具体的な活動内容

まだ発足して間もないため、すでに実施している活動は研修の受け入れ等に留まりますが、活動の内容としては静岡県伐木技術競技会の開催、林業従事者を対象とした「サロン」や「セミナー」の実施、学生の実習受け入れや就業支援などの人材の獲得に向けた活動を計画しています。これらを通して、林業で悩んでいる社員や経営者も、視野を広げられる場になることを目指しています。

面白い活動を行っている林業関係者は県内外にたくさんおり、経営者や技術者を招いたセミナーを来年度以降に年2回程度開催したいと考えています。「一方的に伝えるのではなく、参加者同士がディスカッションできる場にしたい、気づきの場にしたい」と、Fフォーラムらしいセミナーのあり方を目指します。

また、サロンでは、特定の日に正会員の誰かが指定の場所に1日張り付き、その日は誰もがそこに行けば自由に相談・交流できる機会を作りたいと言います。経営者はもちろん、若手でも、中堅でも、疑問や悩みを相談できる、いつもとは違った視点を取り入れることができるなど、業界にとって必要不可欠な場所になりそうな予感がします。



▲県立農林環境専門職大学 機械実習の指導

伐木技術競技会から考える

静岡県林業技術者協会は2025年6月、長い歴史に幕を降ろしました。Fフォーラムでは、同協会から静岡県伐木技術競技会を継承し、11月29日に第31回大会を天城ドームで開催します。静岡の競技会は生の木を使用するた

め現実の仕事に近く、前段で述べた“スタンダードな技術”を審査できます。競技会は、技術をつなげる方法の一つになるでしょう。しかし、今年は主催者や競技会の周知方法が変わったため、参加する林業経営体が限られるかもしれません。競技会に参加者を輩出している事業体は“スタンダードな技術”の大切さを認めている経営体であり、経営者が競技会への出場をリクルート等においてPRできると判断している経営体であるとも言え、競技会を上手く活用しています。



▲静岡県伐木技術競技会

緑の雇用で“スタンダードな技術”を学んでも、技術が身に付かない組織体制などがあると両氏は言います。「職場の中で人は上司や先輩の影響を受けるものです。一緒に仕事をしている上司や先輩から研修で習ったことに対して『そんなことはやらなくて良い』と言われてたり、上司や先輩が基本作業を行なっていなかったりすればそうになってしまう」と今井氏。しかし、緑の雇用のOBや県の指導者養成を受講した者が班長クラスになっている経営体では、研修で習った“スタンダードな技術”が現場で反映され始めています。若手の育ち方において経営体の差が出始めていることを両氏は実感しています。

また、今後は地元の子供や若者が観戦できる、機械展やガイダンスを同時開催するなどの競技会の新しい形を想い描いています。「今出場している選手は若い世代が多く、女性の選手も出て来るなど、競技会では林業の新しい可能性を数多く垣間見られるので、一般の人たちにも見に来てもらい、同世

代やその下の世代にカッコ良いなと思ってもらいたいですね」と宮本氏。他県においても競技会は行われているが「自分たちの競技会はスポーツとして極めるものではなく、つながるためのものとしてやりたいのです」と今井氏。競技会が林業の魅力を伝える場としても進化していそうです。



▲静岡県伐木技術競技会 安全講習

共につなげる

少子高齢化、経済成長率の低さ、グローバルにおける日本の地位低下など、日本は全産業にとって厳しい時代に入っています。林業も変化に対応し、成長しなければ未来がありません。その未来に向けて林業をつなげていくことを目指すFフォーラムの発足は、静岡の林業界における希望ではないでしょうか。この『林業をつなげていく意思』が広がっていくことを期待したいです。

現在、Fフォーラムでは活動に共感いただき経済的な協力をいただける“賛助会員”を募集しています。来年度からは個人会員も募集する予定で、仲間を増やしていきたい考えです。個人会員になった方が活動のアイデアを提案することや、個人会員が立ち上げたものにFフォーラムが協力していくことなども期待していると言います。

「林業は待ちの姿勢が強い。しかし、自ら考え、動く人が出て来てほしいです」と今井氏は話します。静岡の林業の未来を描く、そのための土台作りが、今、静岡から始まっています。

Fフォーラムのウェブサイト

<https://forestersforum.jp/>

支部 だより①

令和6年度初めて 森林経営管理制度を 実施しました

清水町 産業観光課

森林経営管理制度による森林整備の取組について
御紹介いただきました。



▲柿田川水中

清水町の概要について

本町は、静岡県東部の伊豆半島のつけ根に位置しており、南北に約4.54km、東西に約2.7km、総面積は8.81km²の県内では最も面積の小さな町です。日本一の湧水量を誇る国指定天然記念「柿田川」が本町のシンボルになっているほか、狩野川、黄瀬川、丸池などがあります。また、町域のほとんどは市街地や水田の広がる平坦地ですが、町の南西部に位置する徳倉山(256m)、横山(182m)、中央部にある本城山(76m)は数少ない山地となっています。本町の柿田川、丸池、本城山のジオサイトを含む「伊豆半島ジオパーク」は令和7年9月「ユネスコ世界ジオパーク」に再認定されました。



▲丸池

清水町の森林について

本町の総面積881haのうち、森林の面積は92.19haで町面積の10.4%を占めています。森林は、国土の保全、

水源の涵養、地球温暖化の防止、木材をはじめとする林産物の供給等の多面的機能を有しており、町民の生活に大きく貢献しています。このような機能を持続的に発揮するため、下刈、間伐など作業計画を立て実施しています。森林所有者と事業者、町が連携して森林の間伐推進や避難路周辺の森林整備を実施することで、適切な森林整備を目指しています。

森林経営管理権を活用した 森林整備

本町では、令和6年度から森林経営管理権を活用した森林整備を実施しました。森林整備までの流れとしては、まず、森林のある自治会に森林整備内容を周知し、提出期限までに要望箇所の提出をお願いします。つぎに、提出された要望箇所を産業観光課で確認し、森林整備優先度の高い箇所を絞り込みます。主に、通園路や通学路、避難路になっている公道に隣接する森林を優先度の高い整備箇所としています。そして、対象範囲を絞りこんだ後、意向調査は直営で行い、森林所有者から経営管理権集積計画について同意を得ます。そのあとは、現地調査から森林整備業務を事業者へ委託し、

森林整備を行っていきます。他の自治体と異なるところは、森林整備対象範囲を絞りこむことで、意向調査から森林整備までを単年度で実施できたところでした。このようなことができた要因としては、本町の森林面積が少ないことと森林所有者の共有登記が少ないことが挙げられます。



▲本城山

その他の取組

森林環境贈与税を活用し、森林の保安及び森林教育を行うことを目的に、町内在住の小学生及び中学生を対象とした植林バスツアーを実施予定です。また、今年度の成人の日の集いでは、記念品として町有林を活用した箸を製作し、若者に本町の木に触れる機会を提供したいと考えています。林業に携わる若者が低下している中、森林環境贈与税等を活用しながら林業の魅力を町民に発信していきたいと思っています。

支部 だより②

「天竜材を使おう!」 天竜材(FSC®認証材)利用拡大に 向けた住宅補助事業の取組

浜松市 林業振興課 内藤正比呂

天竜材を使用した住宅建築の補助事業について御紹介いただきました。

はじめに

浜松市では、天竜材(FSC認証材)を使用した住宅を対象にした事業、「天竜材の家百年住居^{すまい}の助成事業」を実施しています。

住宅に天竜材を使うことで、街なか
に第二の森を創り炭素固定やSDGs
への貢献が可能となります。

「住宅」はとても大きな買い物であり、ましてや木材は決して安価なものではありません。地元の美しい木材を使用していただくために、建築主の金銭的負担を少しでも軽減するとともに木材利用を進めています。



▲ 本事業を活用した天竜材の家が「浜松ウッドコレクション2022最優秀賞」を受賞



目的及び補助内容について

本事業では、浜松市の天竜材(FSC認証材)を一定以上使用して住宅を建築(増築を含む)される建築主に、

そのFSC認証材の購入費用の一部を補助しています。これにより地産地消を推進し、地域の森林資源の循環利用を実現することを目的としています。

補助の内容は、天竜材(FSC認証材)使用量1㎡あたり2万円、1棟につき40万円(20㎡)を上限。

さらにFSC-COC認証取得工務店が建築した場合10万円を加算。最大1棟あたり50万円を補助しています。

現状と課題

人口減少や物価高騰等により新築住宅着工数が年々減少する中、天竜材(FSC認証材)の使用も低下傾向にあります。持続可能な森林管理とサプライチェーンの維持のためには、さらなる天竜材(FSC認証材)の利用量拡大が必要であり、本事業の重要性が高まっています。

本事業に関わる工務店等へのアンケートを実施したところ「本事業を知らない」「天竜材の良さを知らない、伝わらない」「脱炭素化やSDGsの意識が低い」などさまざまな意見があり、本事業を検証していく上で、まだまだ伸びしろがあり、利用拡大のチャンスがあることがわかります。

さらに、専門的な内容の提出書類も多く、工務店・製材業者及び木材生産業者の皆さんの協力なくしては成立しない事業であり、今後の改善ポイントとも言えます。

今後について

浜松市が誇る、日本三大人工美林である「天竜美林」をもっと地元の方に理解・活用していただき、「天竜材の家」をスタンダードなものにするために、時代にマッチした事業制度の見直しは必須です。事業内容の見直しはもちろんのこと、住宅の購入を検討している方に、天竜材の魅力を伝えたり本事業を知っていただくためのPRを行ったりすることの大切さを実感しています。PRの一環として、浜松市で発信しているインスタグラム「はまのう」に定期的に投稿を始めました。

しかし、行政だけではどうにもなりません。

工務店・製材業者及び木材生産者の皆さんと協力して、天竜材の魅力を継続して発信し、時代に合った事業へ進化していくことが大切だと感じています。



▲事業活用の証「家康くんシール」



▲「はまのう」投稿記事

県庁 だより

県立森林公園60周年の軌跡

くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課

開園60周年を迎える県立森林公園の成り立ちから現在に至る軌跡について紹介いただきました。

はじめに

静岡県環境ふれあい課では、県内9つの自然ふれあい施設を管理しています。そのなかの1つ、浜松市浜名区にある県立森林公園は、今年度で開園60周年を迎えます。

森林公園内のビジターセンター「バードピア浜北」では、開園60周年を記念して、森林公園の歴史を振り返る記念展「森のあゆみとこれから展」が開催されています。

森林公園の「これまで」を振り返り、森林公園の「これから」を考えるという展示内容で、整備前から整備中の写真、当時の新聞記事など森林公園の歴史的資料が数多く展示されています。

森林公園の成り立ちから現在に至るまでの軌跡をご紹介します。



▲企画展の様子

森林公園開園前

森林公園の森林は、明治時代には、皇室の財産である御領林として管理されていましたが、大正14年に林野庁が静岡県に御領林を払い下げたことで、県有林となりました。

アカマツ林を主体とした県有林では、マツタケ狩と称して、森林内でゴザを敷き歌や踊りが行われる等、地域に親しまれる賑やかな森林となっていました。

その後、昭和36年に県知事が、森林

公園設置構想を表明し、森林公園としての整備が始まりました。

開園から現在まで

県立森林公園は、県民がアカマツ林を主体とした自然に親しむ保健休養の場として、森林の効用と自然保護に対する理解を深めることを目的に整備が開始され、昭和40年度に開園しました。

平成4年には宿泊施設及び研修棟を備えた森の家が整備され、平成15年には、森林公園内の自然情報発信の場として、ビジターセンター「バードピア浜北」が整備され、主要な施設がそろいました。

施設の整備が進んだことで、森林公園のサービスの幅が広がりました。

現在の森林公園

現在、森林公園には、森の家、ビジターセンター、木工体験館が存在します。

森の家には、レストランが併設され、森林公園の自然を満喫しながら、季節ごと地元の旬の素材を活かした食事を楽しむことができます。昨年度は新しい宿泊プログラムとして、ホテル観察など森林公園ならではの体験を提供し、好評をいただいています。

ビジターセンターでは、鳥類を中心とした森林公園に生息する生物を、幅広い年代の方に親しんでもらえるよう、写真や模型などでわかりやすく解説しています。このほか、野生生物の観察会などの自然体験プログラムを開催しており、自然学習の場も提供しています。

木工体験館では、バードカービングや本棚作りなどのプログラムを楽しめます。



▲自然体験プログラムの様子

森林公園にまつわる思い出募集中!

記念展内の「思い出の森林」コーナーへの展示品として、森林公園内で撮影したなつかしの写真や、森林公園にまつわるエピソード等、皆様の思い出を募集しています。応募者には粗品を進呈いたしますので、ふるってご応募ください(応募締切:令和8年3月31日)。

上記展示のほかにも、自然観察会等、数多くのイベントを企画していますので、ぜひご参加ください。

森林公園のイベントはホームページで公開しています(下記QRコード参照)



▲企画展チラシ

おわりに

今後も、森林公園が70周年、80周年と、県民の皆様から愛され続ける場所になるよう、引き続き、管理、運営に努めて参ります。

皆様のご来園、ご愛顧を心から願っています。

静岡県環境ふれあい課
電話番号 054-221-2848

QRコード
(県立森林公園HP)



本部報

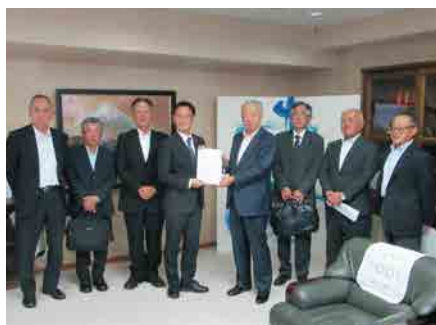
県への要請活動

山林協会では、静岡県森林組合連合会、静岡県木材協同組合連合会、静岡県山林種苗協同組合連合会、静岡県椎茸産業振興協議会、公益社団法人静岡県林業会議所と連携して、10月10日に、令和8年度森林・林業施策に係る要請を鈴木知事、平木副知事及び関係部長等に対して行いました。

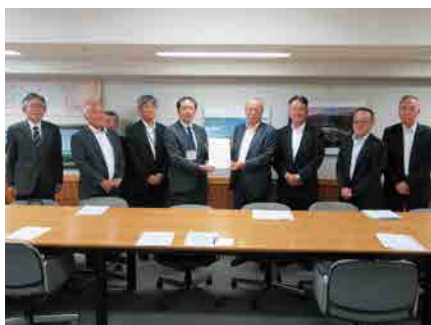
当協会からは、「気候変動等に対応した森林整備・治山対策の推進（保安林の整備・治山工事の推進等）」、「カーボンニュートラル実現等に資する森林・林業施策の推進（早生樹の育成・利用促進等）」、「持続可能な林業のための森林・林業イノベーション等の推進（集約化、境界明確化の促進等）」、「林業を支える人材の確保支援（林業従事者の定着率向上等）」、「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」の継続」の5項目を要請しました。



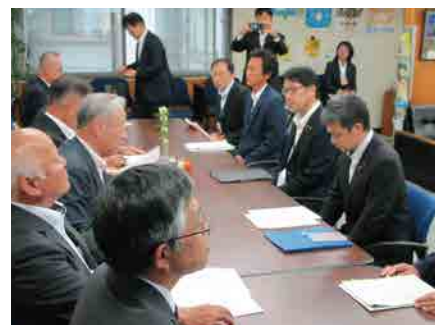
▲鈴木知事への要請



▲平木副知事への要請



▲経済産業部への要請



▲くらし・環境部への要請

国への要望活動

1都8県の協会で構成する「関東甲静地区治山林道協会連絡協議会」では、9月10日、令和8年度治山事業・林道事業の予算確保などについて、財務省主計局長や林野庁長官などに要望を行いました。



▲宇波財務省主計局長への要望



▲小坂林野庁長官への要望

本 部 情 報

林業への就業支援の取組

9～10月の主な取組は以下のとおりです。

〇しずおか森林の仕事ガイダンス

就業相談会「しずおか森林の仕事ガイダンス」を静岡市内(9/7 静岡音楽館AOI)、浜松市内(10/25 浜北文化センター)で開催しました。県内外から多数の参加があり、新規採用を予定している経営体やハローワークなどが、仕事の内容などの説明・相談に応じました。



▲9/7静岡市内

〇シゴトフェア

静岡市(8/31)、沼津市(9/6)、浜松市(9/7)の各会場で開催された静岡の転職・就職イベント「シゴトフェア(主催:㈱アルバイトタイムス)」に静岡県の林業紹介ブースを出展し、県担当者とともに相談に応じました。



▲8/31静岡市内

〇林業就業支援講習

10月14日から24日(10日間)に、「林業就業支援講習」を県森林・林業研究センター(浜松市浜名区)等で実施。9名の方が受講し、チェーンソーの資格や林業技術等を習得しました。



▲チェーンソー資格講習

〇しずおか森林の仕事見学会

第1回森林の仕事見学会を9月20日に島田市内で開催しました。8名が参加し、伐採現場、製材工場及び原木市場を見学し、林業の仕事のイメージをつかんでいただきました。



▲伐採現場の見学

11～1月は、下記のとおり仕事見学会等を予定しています。

詳細は、しずおか林業就業支援サイト「森林(もり)ナビ」でご確認ください。 <https://www.morinavi-shizuoka.net/>

①第2回しずおか森林の仕事見学会

内 容：伐採現場や丸太市場、製材施設などを見学します。
日 時：令和7年12月6日(土)
場 所：伊豆市内
募集定員：15名程度
募集期限：令和7年11月26日(水)

②第5回しずおか森林の仕事ガイダンス

内 容：林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。
日 時：令和7年11月29日(土)
場 所：三島市内(三島商工会議 さんしんみゆうくんホール)

第6回しずおか森林の仕事ガイダンス

内 容：林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。
日 時：令和8年1月17日(土)
場 所：静岡市内(静岡理科大学 静岡駅前キャンパス)

第42回

しずおか森林写真コンクール受賞作品



最優秀賞

朝陽射す溪谷の森

山下 多津美(静岡市) 撮影地:静岡市清水区吉原



審査講評

審査委員長
竹林 喜由

今年度の応募につきましては、応募点数311点、応募者数106名(前年度289点、115名)と前年に比べ応募点数は増加、応募者数は微減となっておりますが大きな変化もなく安定していると思われま

す。今回は、去る9月19日に8名の審査員により審査が行われました。応募作品は内容的に見て非常にレベルの高い作品が応募されたと感じております。ただ、一部の作品は例年申し上げている、色補正を強くし過ぎて自然の色調を壊してしまった作品も見受けられました。

また、データーの合成による作品やコンクールの趣旨にそぐわないものは対象となりませんので、応募規定などをご確認のうえ応募くださいますようお願いいたします。

最優秀賞(静岡県知事賞)は、山下多津美氏の「朝陽射す溪谷の森」に決定しました。

静岡市清水区吉原での撮影。深い溪谷に朝霧が立ち込めて雲海が発生しています。湧き上がる朝霧に朝日が射し込んだタイミングもよくダイナミックな動感を出しています。山々の稜線の森林も美しく、遠景の富士山も存在感があり画面構成も良く、朝のすがすがしさも伝わってくる気持ちの良い作品になっています。作者の技術の高さを感じます。

特選(静岡県山林協会長賞)は、岩浅利泰氏の「霊峰に輝く」、清水輝美氏の「アートなシェルター」、同(静岡県グリーンバンク理事長賞) 杉田悠一郎氏の「森と川がくれた笑顔」に決定しました。

「霊峰に輝く」裾野市須山地区での撮影。作者は「人知れず暗夜の満開の一本桜を写真におさめたく通った中の一枚」との解説をしています。夜間の暗い場所での撮影には、危険も多く事前のロケハンも必要で苦労も多いことと思いますが、この作品は画面構成や露出の適格性、桜を浮かびあがらせた撮影技術など作者の想いが表現された素晴らしい作品だと思います。

「アートなシェルター」天竜区佐久間町吉澤での撮影。植林された苗木を鹿の食害から守るためのシェルターとのこと。一般人にとってはかわい

い鹿でも林業関係者には迷惑な存在のようです。立派な森になるまで管理が必要です、作者はこの風景にアートを感じたようですが、まさに現代美術作品を見る感じがいたします。これが写真の面白さではないでしょうか。

準特選(静岡県山林協会長賞)は、鈴木悦夫氏の「森の雲海」、袋井勇太氏の「クライミング」、宮崎泰一氏の「晩秋の瀑布」、勝又守洋氏の「富士を守る治山ダム」、同(静岡県グリーンバンク理事長賞) 小栗 進氏の「森に舞う」に決定しました。

「森の雲海」静岡市清水区布沢での撮影。この場所は富士山撮影のポイントで、新茶のシーズンは興津川から昇る朝霧が雲海となり素晴らしい風景を作ってくれる場所です。朝焼けの空に富士山、眼下に広がる山々は雲海に浮く島のように。朝霧に朝日が差し込み幽玄な世界を表現しています。撮影技術も秀逸で良い作品になったと思います。

「クライミング」藤枝市での撮影。神社のご神木の伐採作業の様子とのこと。樹齢のある老木

で、安全管理のための伐採となったのでしょうか、永い年月ご神木として大事に育てられてきた木を切るのには忍びない思いがいたしますが、事情があることで止むを得ない事でしょう。また、このような作業風景はなかなか見る機会がありませんが、作業されている人物の装備をよく見るとベルトにつるされた道具が沢山あって興味がわきます。蚊取り線香などもあるようです。珍しい被写体に恵まれたチャンスを確実に作品にした撮影技術も評価できる一枚です。

「晩秋の瀑布」富士宮市音止の滝での撮影。白糸の滝と隣り合った滝で、鎌倉時代曾我十郎、五郎兄弟が仇討ちの相談をした際に、滝の轟音が一瞬止んだという伝説から音止の滝と呼ばれているとのこと。この作品は秋の澄んだ空気感の描写と紅葉のあでやかな赤、富士山と滝がバランスよく配置された画面は安定感と感動を与えてくれています。作者の力量を感じます。

「富士を守る治山ダム」富士宮市栗倉富士山スカイラインでの撮影。この写真のダムは専門的には治山ダムと呼ばれているようです。土砂の流出を防止するためのダムで、間伐材を有効活用して型枠を作り中にコンクリートを流し込んで作られているようです。美しい富士山を保全するために、地道な努力がされていることに感謝したいと思います。珍しい被写体を確実に作品にしています、技術的にも秀逸です。

「森に舞う」浜松市浜名区引佐町渋川寺野での撮影。寺野地区で開催される正月3日の観音堂ひょうどり祭り、手に松明をもって歌いながら踊ることから火踊りがなまってひょうどりとなったとの事です。山間地の森の中で毎年行われる伝統行事、巫女さんが踊る五穀豊穡の舞を記録し、文化を保存することはカメラマンにとっても大切な行為だと思います。ぜひ続けて頂きたいです。

この他に入選19点が選ばれましたが、いずれも力作でどれが入賞してもおかしくない作品ばかりでした。来年も多数の力作の応募を期待いたします。



特選

霊峰に輝く

岩浅 利泰(御殿場市)
撮影地: 裾野市須山地区内



特選

アートなシェルター

清水 輝美(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区佐久間町吉澤



特選

静岡県
グリーンバンク

森と川がくれた笑顔

杉田 悠一郎(静岡市)
撮影地: 静岡市清水区西里西里キャンプ適地



準特選

森の雲海

鈴木 悦夫(富士市)
撮影地: 静岡市清水区布沢



準特選

クライミング

袋井 勇太(島田市)
撮影地: 藤枝市



準特選

晩秋の瀑布

宮崎 泰一(富士市)
撮影地: 富士宮市音止の滝



準特選

富士を守る治山ダム

勝又 守洋(裾野市)
撮影地: 富士宮市栗倉富士山スカイライン



準特選

静岡県
グリーンバンク

森に舞う

小栗 進(浜松市)
撮影地: 浜松市浜名区引佐町渋川寺野

入 選



富士山麓の息吹

高瀬 理絵(富士宮市)
撮影地: 富士宮市下柚野



あともう少し

藤井 昭浩(賀茂郡松崎町)
撮影地: 賀茂郡松崎町石部



紅葉と滝

中沢 力男(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区龍山町白倉峡



林業の未来は明るい

兵庫 泉(島田市)
撮影地: 島田市



青い空と富士と黄色い銀杏

室伏 淳史(富士宮市)
撮影地: 富士宮市白糸の滝自然公園



森と人との交差点

中西 宏嘉(伊東市)
撮影地: 伊豆市 冷川IC付近



迫力の県産材のはい積み

澤野 光寿(静岡市)
撮影地: ノダ富士川工場貯木場



製材所の風景

村上 雅巳(静岡市)
撮影地: 静岡市葵区



新緑と竜姿の滝

上村 涼太(沼津市)
撮影地: 伊豆市 滑沢溪谷

入 選



秋を惜しむ

伊賀 誠(島田市)

撮影地: 周智郡森町一宮小國神社



紅葉のカラマツ林

平井 省吾(富士市)

撮影地: 富士宮市北山



森林の縮図

鈴木 鐵司(菊川市)

撮影地: 富士宮市東鞍骨付近



木漏れ日の中を配達へ

飯田 政巳(磐田市)

撮影地: 浜松市天竜区龍山町瀬尻



鏡面世界の入り口

小笠原 敦(浜松市)

撮影地: 周智郡森町一宮 付近



復旧工事

相羽 強(周智郡森町)

撮影地: 浜松市天竜区佐久間町川合地区



登山道の古木

加藤 年一(富士市)

撮影地: 静岡市西里



涼

加藤 康弘(浜松市)

撮影地: 浜松市浜名湖ガーデンパーク



森林と鉄塔

鈴木 稔也(磐田市)

撮影地: 掛川市 粟ヶ岳からの景色



春爛漫

望月 正晴(静岡市)

撮影地: 静岡市清水区倉沢

令和7年度 治山・林道等コンクールの優秀工事(12工事)

山林協会では、治山・林道・森林整備等工事の中で、優れた工事を顕彰し、施工技術の向上等を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各県農林事務所から推薦をいただき、審査の結果、治山工事の部7件、治山木材使用工事の部1件、林道工事の部3件に対して山林協会長賞を授与することとし、10月29日(水)に静岡市内で表彰式を行いました。

表彰された工事は、急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃からの御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

受賞の皆様

◎治山工事部門



株式会社 外岡組
下田市三丁目



三晃建設 株式会社
御殿場市東田中



渡邊工業 株式会社
裾野市葛山



石福建設 株式会社
静岡市葵区小布杉



角丸建設 株式会社
藤枝市滝沢



株式会社 若杉組
掛川市千浜

◎治山木材使用工事部門



株式会社 渡辺兄弟工業
浜松市天竜区佐久間町相月



静岡県賀茂農林事務所治山課
賀茂郡松崎町雲見



◎林道工事部門



丸宇興業 株式会社
賀茂郡西伊豆町宇久須



土屋建設 株式会社
沼津市戸田



徳山建設 株式会社
榛原郡川根本町東藤川

◎優秀工事一覧

部門	受注者名	施工場所	工事名
治山工事	株式会社 外岡組	下田市三丁目	令和6年度治山(予防)了仙寺工事
	三晃建設 株式会社	御殿場市東田中	令和6年度治山(復旧)西二の岡工事
	渡邊工業 株式会社	裾野市葛山	令和5年度治山(緊急予防)大久保川支流工事
	石福建設 株式会社	静岡市葵区小布杉	令和5年度治山(復旧)三ツ野工事
	角丸建設 株式会社	藤枝市滝沢	令和5年度治山(復旧)野竹工事
	株式会社 若杉組	掛川市千浜	令和5年度県治山(防災林造成)千浜工事
	株式会社 渡辺兄弟工業	浜松市天竜区佐久間町相月	令和5年度治山(復旧)相月沢工事
治山木材使用工事	静岡県賀茂農林事務所治山課	賀茂郡松崎町雲見	令和5年度治山(緊急予防)花沢工事
林道工事	丸宇興業 株式会社	賀茂郡西伊豆町宇久須	令和5年度森林環境保全整備寺澤洞山線工事
	土屋建設 株式会社	沼津市戸田	令和6年度農山漁村地域整備交付金土肥戸田線1工区工事
	徳山建設 株式会社	榛原郡川根本町東藤川	令和6年度森林環境保全整備本城下泉線3工区(5繰越)工事



表彰式

